

ながと成長戦略指針

平成 25 年 5 月

長門市

目 次

はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 1
第 1 章 長門市産業の発展をめぐる動向	・ ・ ・ ・ ・ 1
1 長門市を取り巻く情勢	・ ・ ・ ・ ・ 1
2 わが国の政策方針	・ ・ ・ ・ ・ 2
3 山口県の産業戦略	・ ・ ・ ・ ・ 2
第 2 章 産業発展に向けた長門市の資産	・ ・ ・ ・ ・ 2
第 3 章 成長戦略の方向性	・ ・ ・ ・ ・ 4
第 4 章 取組の進め方	・ ・ ・ ・ ・ 4
1 基本的な考え方	・ ・ ・ ・ ・ 4
(1) 地域資産の活用による高付加価値型商品・サービス開発	・ ・ ・ ・ ・ 4
(2) 大都市圏への販路開拓	・ ・ ・ ・ ・ 4
(3) 安心・安全な食づくりの推進	・ ・ ・ ・ ・ 4
(4) 観光資産の魅力創出と連携	・ ・ ・ ・ ・ 5
(5) 後継者・承継者の確保及び新規就業の創出	・ ・ ・ ・ ・ 5
2 分野ごとの具体的な取組例	・ ・ ・ ・ ・ 5
(1) 農業	・ ・ ・ ・ ・ 5
(2) 水産業	・ ・ ・ ・ ・ 5
(3) 観光産業	・ ・ ・ ・ ・ 6
おわりに	・ ・ ・ ・ ・ 7

はじめに

“長門市は地域資産の宝庫”

これは、平成 25 年 3 月、長門市のこれからの成長戦略について提言を行った「ながと成長戦略検討会議」委員の共通した意見である。

日本最高水準の効能と手つかずの昭和が残る俵山温泉、本州一の水質を誇る二位ノ浜海水浴場、向津具半島の美しい景色、長州黒かしわや仙崎かまぼこ、童謡詩人金子みすゞ、香月泰男画伯等々、「長門市が残してきた自然」「自然から与えられた恵みに基づく産業」さらに「自然に育まれた文化」など多くの資産を有する。

このように「多くの地域では失われたが長門市になお残されているものの希少性」を前面に打ち出し、これらの資産の魅力を更に高めていくことに、これからの発展可能性をかけていく。

人口減少や産業従事者の高齢化により、長門市の再生に残された時間はわずかである。今こそ、長門市の持つ地域資産を活用した所得の向上を図り、雇用の場を確保するとともに、後継者を育成するなど、産業の成長を図っていかねばならない。

以上を踏まえ、ここに長門市における農業、水産業及び観光産業を中心に統一的な成長の方向性を示す戦略指針を策定し、これに基づく産業政策を市民、事業者、関係団体及び行政が「チームながと」として一体となって実施することにより、産業の発展を目指すものである。

第 1 章 長門市産業の発展をめぐる動向

1 長門市を取り巻く情勢

平成 25 年 3 月 27 日、国立社会保障・人口問題研究所から将来推計人口が発表され、2040 年の長門市の人口は、2010 年と比較して 4 割強の減少、22,087 人になるという衝撃的な内容であった。加えて、高齢化率は、全国平均 36.1%を大きく上回る 45.7%になるという。

現在、長門市の農業従事者及び漁業従事者は、ともに高齢化が進んでおり、就業者の平均年齢は 70 歳を超えている。しかも、300 万円以上の事業収入を得ている農業経営体は 1 割にも満たず、漁業経営体にあっても年間事業収入の平均は 560 万円、所得は 150 万円（注）と低く、また新規就農や新規漁業就労が難しいなど極めて厳しい状況にある。

(注) 農業に関する収入の数値は、平成 22 年農林業センサス「市町、農産物販売金額規模別農業経営体数」の長門市における数値である。漁業に関する収入の数値は、中国四国農政局山口地域センター「漁業経営（個人経営体 1 経営体当たり）」の「海面漁業 東シナ海平均」の平成 22 年の数値である。

2 わが国の政策方針

国においては、6月中旬を目途に、「三本の矢」の一つ“民間投資を喚起する『成長戦略』”をまとめ、地方の産業支援に力を注ぎ、国内雇用を確保する施策展開を図るとされている。

一方、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）の本格交渉入りなどをにらみ、農業の競争力強化に向けた改革案もまとめられつつある。

長門市産業の発展を目指す上においては、それらの内容とも、整合を図っていく必要がある。

3 山口県の産業戦略

山口県においては、瀬戸内産業の再生・強化をてこにして、第1次産業から第3次産業まで、バランスのとれた産業力の増強を目指すこととされ、その司令塔として平成 25 年度から産業戦略本部が始動した。

もとより産業力の増強は、中山間地域を支える農林水産業の振興なくして語ることはできない。

広域的なインフラ整備や人材育成など、広域行政体としての県が取り組むべき戦略、そして、地域の個性や強みを活かした長門市産業の振興など、県と市の両方で進める戦略について、役割分担をし、連携強化を図っていく必要がある。

第2章 産業発展に向けた長門市の資産

長門市は、「ながと成長戦略検討会議」において指摘されたとおり、自然、人文、特産品にわたる多種多様、かつ全国に誇れる資産（次表のとおり）を有しており、これらの有機的な活用を図っていく。

また、全国平均に比べ高齢化が非常に早いスピードで進んでいるため、国内の中山間地域が直面する課題を先んじて解決するモデル社会を構築し、提示していくことが可能である。

さらには、アジアマーケットへの近接性など、今後の国際展開に向けても優位性を持っている。

地域資産の分類と体系

区 分		地 域 資 産
自然資産	原生的 自然資産	長門湯本温泉 俵山温泉 湯免温泉 黄波戸温泉 油谷湾温泉 青海島(海上アルプス) 青海島海水浴場 只の浜海水浴場 二位ノ浜海水浴場 伊上海浜公園YYビーチ 350 大浜海水浴場 大日比ナツミカン原樹 千畳敷 龍宮の潮吹 立石観音 川尻岬 俵島
	二次的自然資産	東後畑 (日本海の漁火・棚田)
	野生生物	蛍、猪、鹿
	エネルギー資産	風力発電 太陽光発電
	水資産	青海湖 湯免ダム 狩音ダム 畑ダム 大坊ダム 阿惣ダム
人文資産	歴史的資産	赤崎神社楽棧敷 (近松門左衛門の出生伝承) 八坂神社 飯山八幡宮 三隅八幡宮 日置八幡宮 八幡人丸神社 大寧寺(大内義隆主従の墓所) 二尊院(楊貴妃墓の伝承) 西圓寺 能満寺 青海島鯨墓 鯨位牌 鯨鯢過去帖 早川家住宅 麻羅観音 川尻鯨墓 仙崎引揚港 萩焼深川古窯群 三隅山荘 (村田清風旧宅) 金子みすゞ 香月泰男 村田清風 周布政之助 児玉花外 中原蓬 (女医)
	社会経済的 資産	湯本南条踊 赤崎神社楽踊 俵山女歌舞伎 滝坂神楽舞 伊上南条踊 三隅の腰輪踊 大内山楽踊 向津具楽踊 鯨唄 大津杜氏
	人工施設 資産	俵山多目的交流広場 (ラグビー場) 妙見山展望公園 金子みすゞ記念館 香月泰男美術館 村田清風記念館 くじら資料館 ルネッサながと ラポールゆや オートキャンプ場 (青海島高山・伊上海浜公園)
	町並み	俵山温泉街 みすゞ通り
	特産資産	キジハタ 仙崎ぶとイカ (ケンサキイカ) 油谷本マグロ (養殖マグロ) 仙崎トロあじ (マアジ) メイボ イワシ イサキ メダイ アワビ サザエ 仙崎かまぼこ (焼抜かまぼこ) 天ぷら (揚かまぼこ) 焼ちくわ ちりめん メザシ 平太郎 (オキヒイラギ) 北浦うに
農産物	長州黒かしわ 長州ながと和牛 長門ゆずきち 白オクラ 田屋なす はなっこりー いちご すいか メロン 米 (棚田米・穂垂米・米づくり農家の自信作・こだま米)	
郷土料理	けんちょう わかめむすび 鱈の南蛮漬け ちしゃなます くじらの南蛮煮	
伝統工芸品	萩焼	

第3章 成長戦略の方向性

農業、水産業及び観光産業の垣根を越え、統一した成長戦略のもと、

〔今後5年間の中期目標〕として

- ・ 成長パターンの確立

〔今後10年間の長期目標〕として

- ・ 所得の向上及び地域資産の魅力によって他地域からも若者移住を促す長門市主要産業の再構築
- ・ 主要産業すべてにおける成長パターンの確立
- ・ 農業及び漁業において、年収1,000万円化の確立

を目指す。

第4章 取組の進め方

1 基本的な考え方

「長門の手つかずの自然と、長門の人・自然に対するやさしさ」を基本に統一地域ブランド化し、競争力ある高付加価値型商品の開発や販路の拡大等を図り、所得の向上と雇用の創出を目指す。

(1) 地域資産の活用による高付加価値型商品・サービスの開発

- ・ 地域全体での一体的な取組
- ・ 高付加価値型商品・サービスの安定供給体制づくり
- ・ 民間の投資を引き出す環境整備（事業の合理化と規模拡大）

(2) 大都市圏への販路開拓

- ・ 消費者の視点に立ったマーケティング手法を用いた計画づくりとその推進
- ・ ターゲットの明確化（顧客視点に立った差別化要因の特定）
- ・ 伝わりやすいコミュニケーション（情報発信の手法等の工夫）
- ・ 各種関係者の調整、大都市圏への販売、流通経路開拓、マーケティング、ブランド化などを推進するための司令塔（注）づくり

（注）各種利益団体から人と資金を集め、物産販売協働事業に係る合同会社を設立する。

(3) 安心・安全な食づくりの推進

- ・ 安心・安全な農産物及び水産物の生産及び供給体制の整備
- ・ 食のテキスト化（注）による情報発信

(注) 食材の歴史、栽培法、環境、気候、旬、出荷窓口、出荷方法、他の産地との違い、味、見た目、食感、料理方法などを調査し、整理したもの。

(4) 観光資産の魅力創出と連携

- ・ 長門が誇る自然と文化の魅力向上施策
- ・ 相互の資産の連携と調和による面的整備

(5) 後継者・承継者の確保及び新規就業の創出

- ・ 所得の向上及び労働意欲の向上による後継者・承継者の確保
- ・ 食のテキスト化を通じた、地元（農林水産物）に愛着を持てる食育の推進
- ・ Iターン・Uターン人材に対する技術・事業経営の実習体験、受け入れ体制の整備

2 分野ごとの具体的な取組例

(1) 農業

ア 米

- ・ 自然栽培米・完全無農薬有機肥料栽培米の供給基地化の推進及び海外認証の取得を目指す取組
- ・ 養鶏業・畜産業と連携した循環型農業システムの構築
- ・ 若手就農者に対する育成支援制度の整備

イ 養鶏

- ・ 長州黒かしわの販路拡大及び供給量の増大
- ・ 長州黒かしわのブランド力向上のための取組
- ・ 長州黒かしわを地域で生産される多様な飼料で飼育するための取組

ウ 長州ながと和牛

- ・ 美味しさに加え、食の安全等を重視した販売戦略の推進
- ・ 飼養頭数の増頭
- ・ ブランド化に向けた広報活動の推進

エ 伝統野菜

- ・ 長門ゆずきち、田屋なす、白オクラなど伝統野菜のテキスト化と認知度向上の取組

(2) 水産業

ア 鮮魚

- ・ キジハタ、アワビ等の高級魚介類の資源管理の推進
 - ・ 高付加価値化に向けた、鮮度保持技術の普及と向上、魚のテキスト化、相手方のニーズに応じた最適な輸送方法の検証及び新しい料理法等の開発
 - ・ 合同会社が行う販路開拓による魚価の向上
- イ 加工品
- ・ 水産業者による6次産業化の推進
 - ・ 大都市圏飲食店のニーズを踏まえた試作品づくり及び商品化
- ウ 直売所
- ・ 地元産品（農林水産物）直売施設の整備

(3) 観光産業

ア 仙崎地区

- ・ 金子みすゞのやさしさをコンセプトとした観光サービスの展開
- ・ 趣きある大正・昭和前期の風情を残す町並みの演出
- ・ 食事処や土産物屋での新鮮な魚介類等の購入機会の提供

イ 俵山地区

- ・ 日本最高水準の効能に基づいた「湯治」温泉としてのブランド化
- ・ 療養、癒し、スポーツなど観光客ニーズに対応した企画の提供
- ・ 観光客が散策したくなる景観づくり

ウ 湯本地区

- ・ 宿泊を誘発する仕掛けづくり
- ・ 地元の暮らしや伝統文化を生かした様々な企画の提供
- ・ 観光客が散策したくなる温泉街づくり

エ その他

- ・ 長門らしい体験・交流プログラムの演出及び宿泊や飲食、土産物購入などを通じて経済的対価を得る仕組みの構築
- ・ 向津具半島における、自然や地元食材を柱としたツーリズム（注）の展開

（注）農山漁村地域で自然や文化、人との交流を楽しむ滞在型余暇活動

- ・ 香月泰男美術館やルネッサながとなどの地域資産を活用した戦略的情報発信

おわりに

この指針は、長門市産業の発展による所得の向上と雇用の創出を目的として、策定したものであるが、指針には、農業、水産業及び観光産業の三分野での具体的な取組例を掲げており、統一地域ブランド化による、高付加価値型商品の開発や販路拡大を成長戦略のもと、進めていこうとするものである。

この指針が目指す姿を現実のものとするためには、地域の持つ資産を最大限に活用しながら、「チームながと」として、共通の目標と認識のもとで一体となり、かつスピード感をもって取り組んでいかなければならない。

今後、国や県においても、「成長戦略」や「産業戦略」が具現化してくるが、これらの取組と十分に連携しつつ、市としても、この指針に基づく具体的な行動計画を作成し、市民、事業者、関係団体及び行政が、それぞれの役割分担と協働のもとに、長門市産業の発展を実現していきたい。